

奈良女子大学／神戸女学院大学 共同ジェンダー・シンポジウム

文学を!?

女子大学

で

今から半世紀ほど前に、いわゆる「女子学生亡国論」なるものが言われて世を騒がせ、さらには「女子大学無用論」なる議論が展開されたことがあります。それほどに、「女子」が「大学」で高等教育を受けることやその効用は、強い興味関心の対象であり、批判的でもあったわけです。

では、現在はどうでしょうか? 「女子」だけが学ぶ「女子大学」や、そこで展開されている学び、また、学んだ女性たちの進路と社会における活躍の様子を、社会はどのように見ているのでしょうか? いっぽうで、2015年に文部科学省が出した通達に端を発する「文系学部廃止」論の衝撃は、記憶に新しいところです。いわゆる「役に立たない」学問分野としてやり玉にあげられた「文系学部」のなかで、「文学」を研究し、学ぼうとしている私たちに、いったい、未来はあるのでしょうか?

そこであえて私たちが提案するのが「女子大学で文学を!?!」というテーマです。そもそも、「大学」という場において、女子はどう位置づけられてきたのか。「文学」はいわゆる「女子向き」の学問なのかどうか。そう問いただしたうえで、私たちは、これからの「女子大学」における「文学」の可能性について模索してみたいと思います。

ジェンダー論の知見を取り入れつつ、イギリス文学・アメリカ文学・フランス文学・日本文学といった各国文学を研究・講義してきた経験をふまえ、次の文学の学び方、講義の作り方、位置づけ方を考えたいと思います。

みなさんどうぞ、ご参加ください。

講演

高岡 尚子 (奈良女子大学 研究院 人文科学系 教授 フランス文学)

「薄暗い、本の咲く谷間から

—文学・フランス・ジェンダーをつないで語りあう—

溝口 薫 (神戸女学院大学 文学部 英文学科 教授 イギリス文学)

「英文学、ジェンダー、女子大—まだ終わらないミッション—

コメント

吉川 仁子 (奈良女子大学 研究院 人文科学系 准教授 日本文学)

司会

中川 千帆 (奈良女子大学 研究院 人文科学系 准教授 アメリカ文学)

12.1 14:40-17:20

奈良女子大学総合研究棟 文学系S棟S228講義室

入場無料
申込不要

主催：奈良女子大学文学部言語文化学科「ジェンダー言語文化学プロジェクト」

共催：神戸女学院大学女性学インスティテュート

奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター

●お問合わせ先

奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター

TEL: 0742-20-3611 / E-mail: a-gender.c@cc.nara-wu.ac.jp

